

種名	<u>ホ ト ケ ド ジ ョ ウ</u> <u>Lefua echigonia</u> 
分類	ドジョウ科フクドジョウ亜科ホトケドジョウ属
俗称	ホトケ(日本各地)、マグソドジョウ(山形)、スナサビ(栃木)、シミズドジョウ・ダルマドジョウ(千葉)、オカメドジョウ(長野)、オカメ(岡山)
形態的な特徴	体は基本的に円筒形の細長い形だが、太短くずんぐりした感じの魚である。頭はへらのように縦扁している。体色は肌色地で全体に黒点が散らばる。口ひげは4対あり、その内の一対が鼻孔より上へ角のように出ている。全長は7cmほどになる。
分布	日本固有種で青森県、中国地方西部を除く本州、四国東部に分布する。
繁殖行動	産卵期は3～6月で、水草などに卵を産みつける。他のドジョウ類のように細流などに移動することはない。
生息場所	湧水のように水が清澄で冷たく、流れの緩やかな砂泥底で、水草や石など障害物のあるところに好んで生息する。他のドジョウのように川底を這うようにしているのではなく、水草などの間をゆっくりと泳いでいることが多い。
食性	おもに浮遊性から底生性の水生昆虫など、小動物を食べる。
生息環境への配慮事項	過去の家庭雑排水の増加等による水質の悪化と、近年の河川、水路の三面コンクリートなどへの変化により数を減らした。しかし、湧水を水源とする水路が健全に残っている場所や、溜まり、丘陵の低山帯の山際を流れる水草の繁茂した水路などでは現在も生息が確認できる。本種の保全には水質と水域内の環境が重要である。水質は農業や家庭雑排水の影響が少なく、水温は夏季でもあまり上昇しないという条件が必要である。水域内の環境は石がごろごろとあるようなところか、水草が繁茂しその間を自由に行き来できるような空間が充分にあることが望ましい。そのため、現在本種が生息する水域をそのまま残すのが理想であるが、改修の際には配慮が必要である。産卵場を残すことも含めて河床だけでも自然護岸とし、水草などが生育できるようにする。また、水が常に流れている状態を保つことで、特定の水域の水質が長時間悪化することや水温の上昇を防ぐことができる。
その他	絶滅危惧 類(新潟県RDB) 絶滅危惧 類(環境省RDB)
引用文献: http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変	